

電制コムテック広報紙

とらい

令和 5 年 年始号

発行  
電制コムテック株式会社  
広報室〒 067-0051  
江別市工業町 8 番地の 13  
TEL (011) 380-2101  
FAX (011) 380-2103  
<https://www.dencom.co.jp>

# DENCOM

## 年頭のご挨拶

代表取締役 田上 寛



明けましておめでとうございます。  
新たな年 2023 年を迎え、皆様には健やかに新年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。お取引先の皆様、また関係各所の皆様には、日頃から大変なお力添えをいただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスが未だに終息しておりませんが、昨年からはコロナとの向き合い方も各国に違いが開始しました。中国ではゼロコロナ政策を維持していましたが、欧米では経済活動の平常化を第一に考えてコロナとの共存に舵を切り、街中でのマスク着用姿も殆ど見かけなくなり

ました。その一方で日本は、依然としてコロナ感染への警戒が強く、外国人の入国制限緩和となった今もマスク着用は変わらず、以前のような活気溢れる社会に戻るにはもう少し掛かりそうです。

また、世界経済が混沌としている最中に、ロシアがウクライナへの侵略戦争を始めたことに驚愕しました。国際平和や安全維持のために設立された国連の常任理事国であるロシアが大義も無く悲惨な戦争を始めたことに、世界が一斉にロシア非難を行ったのは当然であり、さらに問題は、世界のエネルギーや食糧といった一次産品の供給不足の事態にまで波及して世界経済の減速に拍車を掛けました。加えて、日本国内ではアメリカの金融政策転換などの影響で急激に円安ドル高が進み、生活環境への影響なども心配です。

一方で、日本人が誇りに思える明るい話題もありました。アメリカ大リーグで活躍中の大谷翔平選手が、「野球の神様」と云われているベブ・ルースの持つ記録を 104 年ぶり

に塗り替えたことです。まさに前人未到の快挙で、これを成し遂げたのが日本人であることも感慨深く、多くの日本人がたくさん勇気と元気を貰いました。

さて、当社も激動の社会環境の中で、創業から 46 年を迎えます。この間の日本経済の動向は、日本が高度経済成長を終えた後の 1977 年に当社が創業し、その後まもなくバブル景気に突入も一転、1991 年頃になるとバブル崩壊で急激な景気後退となり北海道拓殖銀行がまさかの破綻、そのまま景気は低迷を続け、世界トップクラスを誇っていた技術力が大きく後退、そして現在へとめまぐるしく変化してきました。日本が再び経済成長して景気回復、そして技術力において世界トップクラスを目指すためには克服すべき課題が多く、その中でも「日本社会の生産性向上」は急務と云われています。一企業でしかない当社においても、生産性向上は必須の経営課題であり、日本の発展とともに当社も頑張らな

くてはならないと考えております。  
このような状況も踏まえ、2023 年の電制コムテックは、生産性向上を成し遂げるために「事業迅速」を本年 1 年間の活動指針とします。

なお、ここでの「事業迅速」とは、直接業務や間接業務に関わらず全ての業務業態についての迅速であり、社員各自がそれぞれ業務手順見直しや自動化ツール導入なども視野に入れ、過去からの慣習に囚われず大胆に改革する意識が重要です。

早速「事業迅速」を考え活動してください。今年は生産性の向上の結果を出しましょう。

最後になりますが、電制コムテック社員一人一人の努力が多くの皆様の感動に繋がりますよう、本年も当社経営方針にある「人への感動」を胸に、製品の開発、またフィールドエンジニアリングの活動に全力を注いでまいります。

本年が皆様にとりまして、幸多き年となりますことをご祈念申し上げて新年のご挨拶といたします。

## スマートグラスを活用した保守業務

近年、AR（拡張現実）やVR（仮想現実）といったデジタル技術を駆使したサービス機器が増えていきます。その中で当社が特に注目したのがスマートグラスです。スマートグラスはカメラやマイク、あるいはモニターが装備されているだけでなく、AR技術での表示支援も行えるウェアラブル端末で、利便性が抜群です。これらを踏まえ当社では早速、現場のリモート保守用として保守担当部門で導入してみましたのでご紹介します。

当社が行っている現場保守業務の

中で懸案として考えていたことを最初に整理します。

- ①熟練した技術者であっても、どうしても技術力に個人差が出る。
- ②若い技術者の育成にはOJTが必要不可欠であり、技術継承に時間を要する。
- ③現場機器障害の連絡を受け出動した当社保守員が現場から社内技術者に電話で状況説明することもあるが、電話だけでは意思疎通が難しい。

以上の中で特に③の「電話だけでは意思疎通が難しい」という点に着目



【社内技術者と現場保守員が画面を共有して作業しているところ】

し、当社ではスマートグラスを導入してみました。その結果、現場機器の映像をリアルタイムで社内技術者がモニター画面で確認でき、その映像上に手書き指示を加えての音声指

示を行うことができるため、現場との一体感が生まれ、③の懸案はもちろんのこと、ほかの懸案も一緒に解消されました。さらに、保守対応時間や障害時間の短縮にもつながりました。

今回、当社の保守担当部門が導入したスマートグラスは、会社が進めるDX化にもなり、当部門にとっても会社にとっても大きな成果となりました。今後も挑戦する心を忘れずに、より一層の努力でお客様に喜ばれる保守業務に邁進いたします。

## 遠隔監視ネットワークカメラがさらに進化 AIを使った画像認識でアナログメーターを読めるよう技術開発中!

当社ではAIとOCR技術を用いた画像監視システムを開発しておりますが、昨年よりさらに一歩進んでAI技術を用いたアナログメータ数値化システムの開発に取り組んでいます。

本システムは、定点カメラよりアナログメータ値を撮影し、その撮像画像からメータの指示値を読み取り、数値化した情報を遠方の管理施設へ転送する装置です。無人化施設などに設置されている計器類の情報を遠方から確認できる装置として実用化を目指しています。

また、停電状態での監視に対応す

るため装置のバッテリー駆動も想定しております。

本システムが実用化になれば、現地での目視によるメータ値の読み取りが不要になることやメータの閾値判定処理が可能となるため、業務の効率化や省力化が期待できます。

今後は、撮像した画像の数値データへの変換に要する処理時間短縮やメータの閾値を超えた際にリアルタイムで発報などを行うことも視野に入れて、AIによる画像処理の高速化を図ってまいります。

また、本システムが様々な場面で

活用できるよう、LoRa無線を利用した通信コストの削減や、防水・防爆といった特殊な設置環境への適応も必要と考えており、こちらの開発も併せて進めています。



【AI耐環境型カメラ（左）、AI屋外型カメラ（中央）、システム画面（右）】

## ユアトーンがよりスタイリッシュに

使いやすい機能とやわらかい音質はそのままだ、電気式人工喉頭ユアトーンが、よりスタイリッシュにモデルチェンジ。標準型S-2モデルと高機能型G-2モデルとして今年1月に発売いたします。

2017年10月から発売を開始したS-1モデル、G-1モデルをご利用いただいている方々からのご意見やご要望を新しいモデルに反映し、細やかな改良を加えるとともに外観デザインを一新しました。

1998年の発売以来、お客様のご要望に耳を傾け改良を重ね、累計出

荷台数2万台を超えるほどご愛顧いただいております。すでにユアトーンをご利用いただいている皆様にもこれからお選びいただく方にも安心してお使いいただける新しいユアトーンをご提案いたします。



【使用イメージと製品】

## 若手社員現場奮闘記

全道各地の電気所にて、変圧器などの主機の取替工事や、保護継電器盤、制御盤の受入試験や切替作業など様々な業務に携わりました。特に作業時間が限られる停電作業では、緊張で焦ってミスをしたり、理解不足で作業が円滑に進められずご迷惑をお掛けしましたが、関係する皆様にご指導いただきながら各現場で無事に作業を終えることができました。

現場作業では一つのミスが大きな事故に繋がり、最悪の場合、街の電気を止めてしまう可能性があります。そのため、行動する前には一呼

吸おいてから指差呼称を行うことを特に心掛けました。その甲斐もあり、無事作業が終了した時にはささやかながら達成感を味わうことができました。

最後に、まだまだ未熟者ではありますが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



電力技術部 電力技術課 長澤 亮

DENCOM  
TOPICS

### 一般社団法人日本電気協会主催 第67回澁澤賞を受賞しました

この度、北海道電力株式会社様と共同で「コンクリート柱の鉄筋破断診断装置の開発、実用化」への取り組みが評価され、第67回澁澤賞を受賞いたしました。

本賞は、広く電気保安確保などに

優れた業績を上げた方を表彰するものです。

実用化した製品が当社の「SBテスター」になります。

今後もこの受賞を励みに、新技術・新製品開発に邁進してまいります。



【贈呈式の様子】

## 編集後記

本年も様々な新技術を導入した製品開発や効率的な保守業務に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。  
〈広報室〉